# DRS ではなく COBRAS による Unity Connection のアップグレード

### 内容

<u>概要 背景説明</u> <u>長所</u> <u>CUC のバックアップ</u> <u>COBRAS バックアップの制約事項</u> <u>新しい CUC への復元</u> <u>関連情報</u>

### 概要

このドキュメントでは、Cisco ディザスタ リカバリ システム(DRS)の代わりに Cisco Unified Backup and Restore Application Suite(COBRAS)を使用して Cisco Unity Connection(CUC)をアップグレードする方法について説明します。

### 背景説明

CUC のバージョンをアップグレードするときには、アップグレードや DRS の復元(独自の要件 あり)を実行するのではなく、COBRAS を使用して適切なバージョンに直接移行する方が容易で ある場合があります。DRS の復元では、復元を行う CUC とまったく同じバージョンに復元する 必要があります。COBRAS を使用すると、バックアップを実行した後、それより新しいバージョ ンの CUC に復元できます。これは特に、ハードウェアを変更する場合、または仮想環境を使用 している場合に役立ちます。

注:サポートされているすべてのバージョンを確認するには、Cisco Unity ツールのドキュ メント『COBRAS Briefcase Mode』の「<u>バージョン サポート」のセクションを参照してく</u> <u>ださい。</u>

#### 長所

CUC をアップグレードする目的で DRS の代わりに COBRAS を使用すると、アップグレードの 問題のトラブルシューティングで確認や修正に何時間もかける必要がなくなります。このドキュ メントでは、CUC アップグレードやハードウェア移行を行うために COBRAS を使用した方が効 率的だと考えられる理由について説明します。COBRAS のドキュメンテーションは優れており、 さまざまな手順に関する詳細情報が含まれていますが、アップグレード パスとして見逃されるこ とが少なくありません。 **ヒント**:次のセクションで説明する手順は、単に概要のみを示しています。詳細な手順については、COBRASのドキュメンテーションを参照してください。

# CUC のバックアップ

CUC をバックアップするには、次の手順を実行します。

- 1. COBRAS を PC にインストールします。
- 2. CUC 内で、リモート管理者ロールを持つアカウントを、メールボックスなしで作成します。
- 3. CUC の Web ページに移動し、[Add New] をクリックします。
- 4. [User Type] フィールドで [User Without Mailbox] を選択し、適切な情報を入力します。
- 5. [Database Proxy Service] を有効にして、COBRAS がデータベースにアクセスできるように します。
- 6. CUC の Web ページで、[System Settings] > [Advanced] > [Connection Administration] に移 動します。
- [Database Proxy:Service Shutdown Timer (In Days)] フィールドを探して値 30 を入力して、
  [Save] をクリックします。
  注:この値は [Days](日数)単位で定義されます。
- 8. [CUC Serviceability] Web ページにアクセスし、[Tools] > [Service Management] に移動します。
- 9. [Optional Services] フィールドで [Connection Database Proxy] を見つけて [Activate] をクリ ックし、[Start] をクリックします。これで、COBRAS からデータベース接続を確立してバ ックアップを実行できるようになりました。
- 10. 現在のシステム設定をバックアップするのに適した設定を選択します。

5	COBRAS Export for Connection
	Configure Options Help
	Backup Options Select Backup Destination Active Command Line Options Connection Server Details
	Subscribers:
	Include greeting WAV files
	lin Indude voice nomes
	Include private distribution list details
	Include voice messages
	Only include messages never than 20 👻 days ald
	include secure voice messages in backup
	include deleted messages in backup (NOTE: these restore as saved/read messages)
	Include messages for all subscribers
	Include messages only for selected subscribers choose
	Coll Hondlers:
	Induce greeing way hies
	Duble voice names
	Public Distribution Class.
	Include voice names
	License Details for Migration to Connection 7.x and Later:
	Induce license host ID data needed to migrate to Connection 7.x and later. NDTE: this may require another login for CLI Access

**注**:バックアップ手順とエクスポート手順についての詳細は、Cisco Unity ツールのドキュ メント『COBRAS Briefcase Mode』の「<u>COBRAS エクスポート」のセクションを参照して</u> <u>ください。</u>

### COBRAS バックアップの制約事項

COBRAS では、いくつかの特定のシステム設定がバックアップされないことに注意してください 。そのため、復元前にこれらを手動で作成しておく必要があります。以下に一般的な設定の一覧 を示しますが、<u>COBRAS のドキュメンテーションで完全なリストを参照することをお勧めします</u> <u>。</u>

- カスタム サービス クラス
- カスタム スケジュール
- •規制テーブルのカスタム変更
- Cisco Unified Communications Manager (CUCM)とのスイッチ統合
- Lightweight Directory Access Protocol(LDAP)統合

# 新しい CUC への復元

新しいバージョンの CUC にシステムを復元するには、次の手順を実行します。

- 1. CUC 内で、リモート管理者ロールを持つ復元用の新規アカウントを、メールボックスなし で作成します。
- 2. 実際の環境設定に応じて、COBRAS で復元されない構成要素を、前のセクションで説明したとおりに手動で作成します。

3. これで、システム復元手順を実行できるようになります。

**注**:新しいバージョンの CUC にシステムを復元する方法の詳細については、Cisco Unity ツ ールのドキュメント『COBRAS Briefcase Mode』の「<u>復元手順」のセクションを参照して</u> <u>ください。</u>

# 関連情報

- <u>COBRAS ブリーフケース モード : Cisco Unity ツール</u>
- ・ <u>テクニカル サポートとドキュメント Cisco Systems</u>